# 再構成型無細胞タンパク質合成系 (PUREfrex<sup>®</sup>) によるN末端翻訳後修飾されたタンパク質の合成

Synthesis of N-terminal post-translationally modified proteins using PURE *frex*®

## ○松本 令奈¹, 丹羽 達也², 田口 英樹², 金森 崇¹ (¹ジーンフロンティア株式会社、²東エ大・研究院・細胞センター)



<sup>o</sup> Rena Matsumoto, Tatsuya Niwa, Hideki Taguchi and Takashi Kanamori (<sup>1</sup>GeneFrontier Corp., <sup>2</sup>Cell Biology Center, IIR, Tokyo Tech)

## <Abstract>

PUREfrex<sup>®</sup>は、PURE systemを基にした大腸菌でのタンパク質合成に関与する因子のみから再構成した無細胞 タンパク質合成系である。反応条件や追加因子の調節が容易なため、様々な翻訳後修飾の検討が可能である。 PUREfrex®を用いた翻訳後修飾の例として、これまでにジスルフィド結合含有タンパク質や糖鎖修飾タンパク質 の合成などが可能であることを示してきた。本研究では、異なる翻訳後修飾タンパク質の合成例として、N末端 にミリストイル基もしくはアセチル基を付加したタンパク質の合成について検討した。

N末端修飾タンパク質作製のためにはホルミル基のない開始メチオニンから始まるポリペプチドを合成する必 要があるため、10-ホルミルテトラヒドロ葉酸(10-CHO-THF)を含まないPURE*frex*®の反応液(Δ10-CHO-THF)を用 いた。また、ミリストイル化タンパク質の合成には、付加反応前に開始メチオニンをメチオニルアミノペプチ ダーゼ (MAP)で切断してGly残基を露出させた。実際に、大腸菌由来のMAPを添加して開始メチオニンが切断さ れたポリペプチドが合成できることを確認した上で、その後のミリストイル化反応の条件検討を行った。

また、N末端アセチル化反応として、N末端アセチル化酵素NatAによるN末端アセチル化、およびNatBによる N末端アセチル化について検証した。NatAによるN末端アセチル化にはMAPによる開始メチオニン切断が必要で あるが、NatBによるN末端アセチル化は開始メチオニンの切断を必要とせず、それぞれについてPUREfrex<sup>®</sup>を用 いたN末端アセチル化タンパク質の作製に向けて条件検討を行った。

これらについて、質量分析による修飾の有無を調べたところ、 PUREfrex®で合成したポリペプチドのN末端へ のミリストイル化およびアセチル化が確認された。

Synthesis of N-terminal post-translationally modified proteins using PURE *frex*®









#### yNAA15 were present simultaneously.

### **3-2.** post-translational acetylation reaction





**Co-translational acetylation of target proteins by NatB and acetyl-**CoA using PURE frex<sup>®</sup> was successful only when yNAA20 and yNAA25 were present simultaneously.

## <Conclution>

N-terminal myristoylation and acetylation of target proteins were succeeded using PURE *frex*<sup>®</sup>.

## <In progress>

Membrane insertion experiments of myristoylated proteins using PURE*frex*<sup>®</sup>.

For more information, please contact us. URL: www.genefrontier.com E-mail: purefrex@genefrontier.com

